

令和3年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属幼稚園

1 附属幼稚園の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属幼稚園

(2) 所在地

大阪府大阪市平野区流町2-1-79

(3) 学級数・収容定員

6級(1学年2級) 収容定員150人 (1学級30人 ただし3歳児は16人と14人)

(4) 幼児・児童・生徒数

145人 (男児70人 女児75人)

(5) 教職員数

園長(併任) 1人、副園長 1人、主幹教諭 1人、教諭 6人、養護教諭 1人、非常勤講師 2人
事務職員 1人、臨時用務員 1人、スクールカウンセラー 1人
栄養士 2人、調理員 1人

2 附属幼稚園の特徴

豊かな自然環境の中で身近な人々とのあたたかい触れ合いや、生き物たちとの日々の関わりを通して、やさしく、あたたかく、思いやる心が育つことを願っている。

幼稚園生活の主人公は幼児であり、幼児の思いや願いを大切に生活を中心としている。幼児は遊びを通して様々なことを学んでいる。遊びこそが幼児の生活そのものであり、今日の幼児の姿から明日の生活がつくり出されていく。常に幼児の今の姿を出発点として、個々の育ちや発達の状況、その時期にふさわしい遊び(生活)が展開されていくよう、努めている。

また、昭和23年より保護者手作り給食を実施しており、約70年間にわたって受け継がれている。子どもたちに手作りの温かいものを食べさせてあげたいという願いと共に、食の安全や衛生、アレルギー対応など、時代の変化に応じた給食作りを目指している。

3 附属幼稚園の役割

- (1) 学校教育法に基づく幼稚園教育を行う。
- (2) 幼稚園教育の理論と実践に関する研究を行う。
- (3) 本学学生の教育実習を行い、その指導を行う。
- (4) 地域社会における幼児教育の振興に寄与する。

4 附属幼稚園の学校教育目標

「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」

○ 3歳児・・・喜んで幼稚園へ来る子ども

生後わずか3年しかたっていない子どもであるが、一人の人間としてすばらしい力を持ち、一人一人がその子らしさを秘めている時期である。この1年をゆったりと大好きな先生に寄り添い、自分の好きな遊びに没頭し、明日も大好きな幼稚園に行こうと思うことが、これからの保育年限における健やかな育ちを期待する上で何よりも大切なことであるとする。

○ 4歳児・・・友達を見つけて、幼稚園の生活を楽しむ子ども

友達の存在に心を揺り動かし、幼稚園では「いろいろな友達がいる」「一人より友達と一緒に生活が楽しい」「友達と関わり合って育つ」等の体験をしながら、幼稚園生活の楽しさを味わい、思う存分遊ぶ子どもに育つことを願っている。

○ 5歳児・・・友達と心を通わせ、様々な生活に熱中する子ども

心身ともにたくましく、知的好奇心もぐんと増す時期である。試行錯誤を繰り返しながら全力で幼稚園の様々な生活に熱中し、一人でも、みんなとでも「やったね」という成就感を味わい、友達と力を合わせて楽しい園生活をつくり出す子どもに育つことを願っている。

5 附属幼稚園の学校教育計画

1 保育の質を向上するための研究活動の実施

研究テーマ「遊びに生きる子どもを育む～遊びの育ちを追いながら～」

2 安全・安心な園づくり

3 開かれた園組織運営

4 教育実習の指導充実・五校園連携実習の実施

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」		
学校教育計画	1 保育の質を向上するための研究活動の実施	研究テーマ	「遊びに生きる子どもを育む～遊びの育ちを追いながら～」

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> 遊びが広がったり深まったりする中での子どもの育ちを捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの育ちが具体的に分かる記録の取り方を検討する。 事例検討会や園内研修会を通して、遊びが広がったり深まったりする中での子どもの育ちを捉える。 大学の教員や幼児教育関係者と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大妻女子大学の岡先生に園内研修会でご指導いただき、記録の取り方を検討した。実践事例を書く時の記録の書き方を整理することで「子どもが育とうとしている力」や「子どもの思い」を捉えやすくなった。 1つの事例について皆で子どもの育ちを捉える研修を行った。いろいろな教師の見方で子どもの育ちを捉え、多様な幼児の見方をするにつなげた。 研究成果をオンラインで発表した。参加者同士の意見交換をすることはできなかったが、実施できたことは成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの育ちを捉える記録の取り方を学ぶことはできたが、日々の継続した記録につなげていない。日々、継続できる記録についても考えていきたい。 他教師の自分とは違った幼児の見方を学ぶ機会になった。継続して実施できるようにしていきたい。 オンラインを使用した会議は感染状況によらず実施できるのは良かった。研究発表会は参加者からの反応が捉えにくい。アンケートを実施するなどして参加者の意見をもらえるようにしたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 記録は何のためにするのかを考えながら、自分の保育をより良くするための柱を考えていく必要があるのではないかな。 継続して書きたくなる記録、楽しくなる記録が開発できるのであれば、ぜひ広めていただきたい。 オンラインを使用しているアンケートは回答率が悪くなる傾向である。その時にすぐに回答してもらえないシステムを考えることが必要ではないかな。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保育をよりよくしていくための記録についてどのような内容を書くことが大切なのかを再確認し、記録の形式についても検討していきたい。 研究会は参加者の意見を取り入れたり、次の保育につなげていったりするためにも、参加者に答えやすいアンケートについて考えていきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	2 安全・安心な園づくり

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携しながら安全・安心な園づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察や消防と連携しながら防犯や防災についての取組みを深める。 ・防災への意識を高められるよう、防災体験会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯の取り組みでは警察に協力を仰ぎながら、教職員で不審者対応訓練を行った。警察の丁寧な対応により不審者が園内に入った場合の対応の仕方や、教職員の連携の取り方、さすまたやその他の防犯に有効な物の使い方などを学ぶことができた。 ・防災では消防署と幼児教育振興会の協力を仰ぎ、実際に災害が起きた時にできることを学んだり、防災食の試食や防災トイレの体験会ができた。幼児のみでする部分と保護者もかかわる部分をつくることで家庭でも意識を高める機会となった。 ・防犯教室、安全教室などコロナ禍の中で実施しにくい行事は戸外で行ったり、オンラインを使用して行ったりした。コロナ禍でも工夫をすることで学びを止めないことにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯への取り組みは教職員一人一人が意識を高め、取り組むことが必要だと考える。今後もいろいろな役割を交代しながら、実際に不審者が侵入するようなことが起きた時に、臨機応変に対応できるよう研修を重ねていきたい。 ・防災体験会は年長児のみの体験会となったので、今後この取り組みを全体に広げたり、全保護者に伝えたりする機会を設けていきたい。 ・防犯教室、安全教室などオンラインでは伝わりにくさがあるとも感じるが、中止するのではなくできる方法を今後も模索していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・防災への取り組みは、ぜひ全学年に広げていただきたい。 ・警察や消防などは担当が代わっても引きつづき連携がとれるように、こちらから連絡をとっていく必要があるのではないかと。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もいろいろな形での防犯や防災の取組みを行っていきたい。 ・今年度実施してよかったことは次年度に引き継げるようにしていきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	3 開かれた園組織運営

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携を密にし、園運営への参画の意識を高めてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 園行事、PTA 行事実施後にはアンケートを実施し、行事の振り返りに保護者の意見を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA 行事後にはグーグルフォームを使用し、アンケートを実施した。実施後すぐに行えることと、スマホを使った回答だったこともあり、保護者には回答しやすかったようである。即時性があるので今後もうまく活用していけるのではないかと考える。 大きな行事に関してはこれまで通り子どもの成長を担任と共有できるように「ニコニコメッセージ」という形で感想を書いてもらっている。これは一人一人の成長を捉えたり、保護者の感想を聞いたりするためにも有効であったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を全体に還元していく方法を今後考えていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでのアンケートは返信してもらいやすかったのではないかと。一方、安全性や個人情報の取扱いについては徹底していく必要がある。一定の枠を設けて保護者に啓発していかねばならない。 コロナ禍ではあるが保護者の参加も違った形でできるのではないかと。 	A	<ul style="list-style-type: none"> アンケート内容についてはさらに吟味し、個人情報や安易に記入しないように保護者にも啓発していく。 保護者が実際に子どもと触れ合う機会を設けることは難しくても、園運営に保護者の意見を取り入れられるように、園運営に関するアンケートを実施するなど工夫をしていきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	4 教育実習の指導充実・五校園連携実習の実施

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・学びの深い教育実習の在り方を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前後の取り組みの充実を図る。 ・五校園連携実習を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、通常通りの4週間実習を実施した。昨年度よりは1週間長い実習となったことで、丁寧に指導することができた。 ・高校の実習生が来ることはできたが、それ以外は感染症対策のため実施することができなかった。高校の実習生は幼児教育の大切さを感じることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中に臨時休業などになることも考えれば、4週間の実習日程は次年度も確保していきたい。密を避けるため、講話などを行っていないが、それが実習生にどのように影響しているのかの検証が必要である。 ・五校園連携実習は周りからも高い評価を受けている。継続することが大切だと感じるがコロナ禍の中で実施することが難しい状況である。オンラインを使用するなど違った形も模索していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習については保護者の不安感もあるのではないか。それについても丁寧な説明が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、実習生の学びとなるように実習の内容について再検討していきたい。 ・実習に関しては大学との連携も大切である。どのような実習が学生の学びにつながるか、大学とさらに連携を深めていきたい。

